

期腺癌の疑い例，治療目的として高度異形成および上皮内癌例である。現在までに，71例の円錐切除術を行い，経過観察38例，子宮摘出追加33例を経験した。創傷治癒は，術後約8週間を要し，間質組織の増成と頸管円柱上皮および扁平上皮の浸出が認められた。子宮温存例の3例が妊娠し，1例の満期分娩を経験している。

5) 胸部食道癌切除再建術における頸部吻合法の検討

若桑 隆二・和田 寛治
田島 健三・松田由紀夫
岡村 直孝・名村 理 (長岡赤十字病院)
八木 伸夫 (外科)

胸部食道癌切除再建術における吻合操作は，全身的，局所的な特殊性から他の消化管吻合に比べ縫合不全の発生率は高いと考えられる。

我々は，過去2年間に40例の胸部食道癌切除再建術をおこない，その頸部吻合法につき検討したので報告する。

縫合不全は6例(15.0%)に認め，吻合部狭窄は2例(5.0%)に認めた。縫合不全の発生は再建臓器や再建経路では有意差を認めなかった。最近は器械吻合例が多いが，器械吻合21例中5例(23.5%)に縫合不全を認め，手縫い吻合(2列層々吻合)では1例(5.3%)であった。術後肺合併症と縫合不全の発生には有意差($p < 0.01$)を認め，術後管理の重要性が示唆された。確実な操作による吻合が望まれる。

II. 特別講演

手術と創傷治癒，消化管吻合での研究方法

国立がんセンター外科部長

丸山 圭一 先生

第12回新潟高血圧談話会

日時 平成3年11月22日(金)

午後6時～

会場 新潟大学有壬記念館

2階大ホール

I. 一般演題

1) 郵政職員における冠動脈検診の結果

山本 明彦(新潟通信病院)

郵政職員において，血圧に影響を与えられる，年齢，Body Mass Index，食塩摂取量，アルコール摂取量，喫煙量の5因子について，血圧に対する影響度を検討した。さらに上越地方一農村と比較し，生活習慣の相違による血圧の差についても検討した。対象を平成元年度に今回の調査を希望した新潟市男性郵政職員359人と一農村男性住民300人とし，健康診断時に，生活習慣アンケート調査および栄養士による栄養聞き取り調査を施行した。新潟市男性郵政職員では，収縮期血圧はBody Mass Index，アルコール摂取量，年齢と相関し，食塩摂取量，喫煙量とは相関しなかった。拡張期血圧はBody Mass Indexと相関し，他とは相関しなかった。また農村男性住民の高血圧者の割合は36.4%と，新潟市男性郵政職員の18.4%に比し有意に高かったが，その原因として食塩摂取量の多いことが関与していると考えられた(農村住民平均15.2g，郵政職員平均10.8g)。

2) 心電図，血圧などの二世代にわたる観察

江口 晃(NTT長野病院)
新潟健康管理所

電々公社時代よりNTTにかけて在職した60組の同性の親子の心電図を比較した。親の平均年齢48.9歳，子の平均は40.5歳であった。RR間隔より求めた心拍数，PQ間隔，QT時間は親と子の間に有意の正の相関を認めたがQRS巾は有意の相関を認めなかった。

また47組の同性の親子(親の年齢の平均39歳，子の年齢の平均38.3歳)について血圧，身長，体重，心胸比を比較した所，収縮期血圧も拡張期血圧も親子の間に有意の正の相関が見られた。身長，体重についても血圧と同様正の相関があり遺伝の関与が明瞭であった。

子の身長，体重は親よりそれぞれ平均6cm，5kg大きく食生活，社会環境の影響が考えられた。また胸部X